

岩手教区報

第320号
 立教182年8月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3番40号
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



主事・布教部長 鈴木眞彦

親孝行と人だすけ

前期に引き続いて布教部長に任命頂き、微力ながらも、皆様のお力添えを頂いて精一杯つとめさせて頂きたいと思えます。よろしく願います。

さて、今年私は、健康の有難みとかしものかりものの尊さを深く感じる体験をいたしました。実は、正月早々胆嚢の手術をしたのです。昨年10月25日、腹部が突然激痛に襲われ、憩の家に運ばれました。胆嚢の胆石が原因であるとわかりました。この胆石は、石が動くとき痛くなり、石が落ち着くと痛みが嘘のようになくなると聞いていましたが、それは逆で、石が胆管にはまって動かなくなると痛み、胆管からはずれて動き出すと痛みがなくなるのだそうです。一関に戻ってから医師と相談の上、翌年1月に「腹腔鏡下胆のう摘出術」となった訳です。

手術が終わって病室に戻ってきた私の姿は、誰が見ても重病人でした。鼻には酸素マスク、左腕には点滴、右手には酸素濃度感知機、上体には心電図、導尿カテーテル、足にはエコノミークラス症候群を防ぐ機器と、身動きが出来ないほどの物がつけられていたのです。笑い話ですが、朝方腰が痛くなったので寝返りしたところ、心電図の吸盤がはがれ、感

知器の電飾が赤に変わってブザーが鳴り、当直の看護師さんが全員部屋に駆け込んできました。

この入院で、体を貸して頂ける喜び、健康の有難みということを再認識させて頂きました。そして、このことをどのようにに思案し、ご恩報じをさせて頂きたいらうかと思っている時、本部布教部例会における部長挨拶が、「教祖の教えには二つの柱がある。それは親孝行と人だすけ」とのお話でした。すなわち、教祖が望まれていたのは何よりもおつとめであるから、おつとめを教え通りつとめることが親孝行となる。そして、人だすけとはおさづけの取り次ぎである。この二つを實行することが誠実であること、若いときに教えて頂いたというお話でした。このお話を聞かせて頂き、親に喜んで頂ける道を、誠実の心でしっかりと勤めさせて頂くことがご恩報じになると、改めて思わせて頂いた次第です。

布教部では各種研修会、講座を企画していますが、どうぞ一人も多くご参加頂き喜びの種を得て、親に喜んで頂くべく、自信を持ってこの道を通らせて頂きましょう。



「ダライ・ラマとの親交」

チベット仏教の最高指導者ダライ・ラマ法王14世は多くの困難を克服しながらも、民族、国家、宗教を超えて、非暴力で世界平和の為に活躍し、ノーベル平和賞を受賞。世界で最も注目されている宗教者の一人である。ダライ・ラマは又、遺伝子工学(生命科学)の世界的権威村上和雄氏(筑波大学名誉教授・天理教典日分教会ようぼく)と5回にわたり公の場で対談、講演を続け、宗教と科学とが調和し、大自然の恵みに感謝して生きる宗教的な心が、これからますます必要になるといふ認識を深めている。

お二人の第1回の講演と対話は2003年東京・国技館で開催され、2日間で1万人が参集、多くの聴衆が感銘を受けたと言う。その後も法王は度々来日し、

村上先生を初め多くの人と交流を続けている。

チベットといえば、岩手・花巻とも関わりあるチベット仏教研究者・多田等観を語らぬに出来ない。

等観は明治23年秋田市の浄土真宗本願寺派弘誓山西船寺の3男として誕生。学業を終え、京都へ上り、西本願寺宗主大谷光瑞の意向により、ダライ・ラマ法王13世が日本に派遣したチベットの留学生らの世話役を命ぜられた。1年間チベット僧と寝食を共にし、やがて明治45年、留学生らが帰還するにあたり、等観も彼らに付き添いチベットに渡る事になる。当時チベット入国は難難辛苦を伴ったが、辛くも潜入を果たした等観は、「日本はチベットに次ぐ仏教国だが、正しく教えが実践されるようチベットで修行して欲しい」と熱願するダライ・ラマ法王13世の思いに応え、有能な等観は20年かかるところを10年で最高学位ゲシュウ(仏教博士)の称号を外国人として初めて与えられた。又、他の修行僧が法王に謁見できるのは年に一度だけだったが、等観はいつでも会える篤い信頼関係が結ばれていた。愈々、等観が帰国するにあ

たり、別れを惜しむ法王は、チベット仏教の貴重且つ膨大な資料を等観に下付された。驚嘆の他なし。

更に、等観と花巻との関わりは、貴重な資料を空襲などの戦禍から守る為、弟の寺、花巻の光徳寺に保管されていたが現在は世界的コレクションとして花巻市博物館に寄贈、展示されている。今年は等観没後50年の節目にあたり、改めて多田等観という日本人の業績が評価されている。

行事予定

【8月分】

- 2日 主事会(9時)
- 役員会議(10時)
- 5日 少年会例会(16時)
- 10日 教区報編集会議(18時)
- 第40回夏の勉強会(12日)
- 17日 婦人会例会(10時30分)
- 青年会例会(18時)
- 18日 女子青年例会(10時)
- 23日 学生担当委員会例会(19時)
- 9月1日 婦人会「会員決起の集い」(13時 於教務支庁)



磐井分教会会場



平澤先生と感話者

「会員決起の集い」開催報告(7月)
 14日(日)磐井分134名(講師 平澤栄美先生)
 感話 菊田テル子(磐井) 鈴木奈美(氣仙)
 「会員決起の集い」開催予定(9月)
 1日(日)13時教務支庁(講師 山田はる乃先生)
 ※集い後「女子青年大会団参」応援バザー



婦人会



道友社

「『天理時報』手配りひのきしん実務研修会」開催報告

去る7月2日、岩手教区では教務支庁を会場に、「『天理時報』手配りひのきしん実務研修会」を開催し、教区役職者はじめ支部手配り責任者、拠点長など45人が参加した。当日は道友社より松下栄志郎業務課課長補佐が来庁され、『天理時報』手配りひのきしんの実務について、テキストを用いて具体的に説明された。



続いての質疑応答では、日頃から手配りひのきしんの上で困っていること、不明瞭なこと、また要望などが出され、回答と意見交換が活発に行われた。最後に中田祥

浩代表社友より挨拶があり、やはり『天理時報』の増部があつての手配りひのきしんということを再認識し、手配り活動と同時に増部活動にも力を入れて行くことを誓い合つて閉会した。



青年会

「移動例会」実施報告

教区青年会では、7月13、14日の2日間、花巻分教会などで移動例会を実施、5名が参加した。

例会では、相澤元委員長から「移動例会」の目的について、支部を訪ねての人材発掘及び青年会活動の啓発であると示された。そして、今後の積極的な声かけで活動を推進して行こうと話し合われた。その後、花巻分教会の協力の元、バーベキューを行い、例会に初参加の会員と有意義な時間を過ごした。翌朝、教会付近で幸せ拾いを行った。



少年会

「こどもおぢばがえり」団体報告



少年会岩手教区団は、7月28日から8月1日の日程で、こどもおぢばがえり団体を実施し、少年会員20名(内少年ひのきしん隊員13名)、育成係21名(内カウンセラー6名)、計41名が参加した。

28日釜石を始発、盛岡、紫波、一関から参加者が順次乗車し、おぢばへ向けて出発した。翌29日朝、宿舎である城山詰所に到着。早速神殿に向かい、無事にお



夏の勉強会

「第40回夏の勉強会」

【8月10日～12日】

「夏の勉強会」を左記の要項で開催します。道の後継者育成の上から昭和55年に始まった同勉強会は、今年で第40回の節目を迎えました。学習の他にも多彩な企画を準備していますので、一人でも多くの参加をお願いします。

日時	8月10日(土) 14時受付 12日(月) 13時30分解散
会場	教務支庁
対象	小学校高学年及び中学生
持ち物	宿題・教科書・参考書・宿泊に必要なもの
参加費	2千円(兄弟姉妹は2人目から500円)
申込	8月8日迄に教務支庁に申込書をFAXして下さい。
問合せ	門間道明 019(647)1201

連れ通りいただいた御礼を込めて参拝させて頂き、その後、お楽しみ行事を中心に行事会場をまわった。

鼓笛隊は、29日夜のおやすとパレード出演。テーマソング「大好きな おぢばへ」を力いっぱい演奏し、一年間の練習の成果を親神様、教祖にご覧いただいた。

なお、少年ひのきしん隊員は、31日に入隊し、朝のおつとめ、お茶接待、おやすとパレード出演など、8月4日最終日まで、親

里各所で尊い汗を流してくれている。

沢山の思い出と温かい親心をいただいた団体は、8

月1日無事帰着した。

